

こんな  
取組です

## 熊本県教育委員会 地域学校協働活動モデル地域指定事業（芦北教育事務所管内） 人と地域を思い合える「機会」と「きっかけ」作り

芦北町教育委員会	●目指す子供の姿	●身に付けさせたい子供の力
	①「楽しく進んで学ぶ」、②「けじめをもってくらす」 ③「健康を意識してくらす」、④「自分や友達を大切にする」	「知」学力向上、「徳」豊かな心、「体」健康・体力
学校や地域の課題	①学校：少子化とコロナ禍の影響や、親世代が少ないこともあり児童生徒が学校周辺の地域や住民とのやり取りが少なくなっている。また、町内の小中学校が広範囲に点在しているため、相互のやり取りや協働活動が難しい。 ②地域：親世代の住民が少なく、更に共働きの家庭が多いために、地域での活動や取り組みの際に世代を超えた交流が減り、お互いへの理解が深まりづらくなっている。お互いに「地域のため、子どもたちのために何かしたい」という思いは持っているが、先述の状況により実現し難い。	

### ●取組の概要・特徴や工夫

○ 地域と世代を跨いだ、熟議とそれぞれが活躍できる場所を作る ○  
課題解決の糸口として、様々な方々が参加できる場所と機会の設置を行なった。その際、できる限り「子どもが中心」となるように配慮をした。

①様々な懇談会、意見交換会  
生徒会と地域住民、PTA(保護者)と学校運営協議会、ボランティアの方々など、一年を通して様々な懇談会や意見交換会を実施した。熟議の場を設けることで、お互いの理解を深めることができ、自然と思いやりを持つことが出来た。

②子どもが計画から運営まで行うスポーツイベント  
町内の住民なら誰でも参加が可能なスポーツイベント「あしきたリレーマラソン大会」を実施した。イベントの実行委員会には地元有志の子どもが参加し、故郷にちなんだチーム名やキャラクターの作成、参加者が喜んでくれるような工夫などを考え、それを大人がサポートする形で進めた。また、運営予算の確保のためにフリーマーケットを開催したが、そちらも子どもを中心に運営した。

### ●取組の実際

① 様々な懇談会・意見交換会	② 子どもが中心のスポーツイベント
 	  

生徒と住民の懇談会(上)  
先生方との懇談会(下)  
ボランティアの懇談会チラシ(右)

フリーマーケット(上)  
大会の様子(下)  
大会のチラシ(右)

### ●地域学校協働活動における効果・成果

○一体的な推進  
コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進のために、まずはそれぞれ立場の違う方々が同じ場所に集まり、お互いを知り、話し合いから始めることを大事にしている。初年度は、学校をサポートすることを念頭にスタートしたが、こちらの意図や思いを伝えきれないまま始めてしまったために、理解を得ることが難しかった。熟議の場を増やし、相互の理解を深めることで信頼関係も築け、結果として、思いやる気持ちをもとにした活動に繋がっている。学校と地域とのやり取りも活発になり、子どもたちを中心に考えたより良い推進となっている。

○人材育成  
「あの人(地域)のために何かをしたい」という感情が自然と芽生える人を育成することが、地域学校協働活動の大きな目的の一つと捉えている。そのための機会やきっかけ作りを学校運営協議会や推進員が行うことで、近年は、子どもや学校、地域からも意欲的な声や新しい活動の提案が増えている。特に、子どもからの意見や発言が増え、それを叶えてあげたいと協力してくださる方々も合わせて増加している。良い循環が生まれているので、今後も継続していきたい。

○学校や地域が抱える課題の解決  
熟議や活躍できる場所やきっかけを作ることで、子ども・先生・学校・地域間での相互関係が生まれ、上記の課題は少しずつ解決していると感じている。先述したように、これまでは機会やきっかけを校区推進員が作るが多かったが、ここ数年では子ども、学校、地域からも声が上がって活動することがとても増えた。相手を思いやり活動することで、自己有用感を持てるようになったと考えられる。